

耳原総合病院緩和ケア病棟の現状と今後



緩和ケア病棟 医師
坂本 英代

緩和ケア病棟とは

緩和ケア病棟とは癌による身体的、精神的苦痛を和らげるのを目的に開設された病棟です。癌に対する積極的治療(手術、抗癌剤治療、放射線治療など)が終了した方で、癌に伴う身体的や精神的な苦痛をもった方に入院して頂いて症状緩和を行います。

緩和ケア病棟体制

耳原総合病院緩和ケア病棟は2003年開設で10周年を迎えた所です。



個室

稼働ベッドは21床、この4月に病棟改装し個室を17床に増やしています。

病棟医長は院長が兼務、あと非常勤医師1名の2名体制です。

看護師は19名、夜勤は看護師2名体制となります。

患者様の話を聞くことで少しでも気持ちが和らげばと2年前から心理士が配属となっています。

3時になるとボランティアさんが患者様のお好きな飲み物を配ってくれます。



デイルーム

デイルームでは毎週金曜午後にボランティアによるコーラス、月1回土曜午後に季節に合わせた催しを開催しています。

看取りの場を提供

現在日本の年間死亡者数は約120万人ですが、高齢化に伴って2030年には年間160万人を超える方が亡くなる多死社会を迎えようとしています。死亡者の増加に伴って癌で亡くなる方も増えていきます。

自宅で亡くなりたいという希望もありますが、高齢者世帯の増加、核家族化、地域社会の崩壊などの理由から、多くの方にとって家族介護を受けながら自宅で亡くなるのは実際には困難な状況です。

耳原病院緩和ケア病棟ではより多くの方に看取りの場を提供するという方針の元、ここ数年入院受け入れを増やしています。2012年度は年間247名の入院を受け入れ、187名の方を看取りました(図1)。

2012年度の平均入院期間は27.2日です。死亡30日前後より倦怠感、食思低下、不眠、呼吸苦、混乱などの症状が急激に増えてきます(図2)。亡くなる前の症状が辛くなる時期に入院して頂いて、出来るだけ苦痛なく過ごせるよう取り組んでいます。

図1/年間退院数・死亡者推移

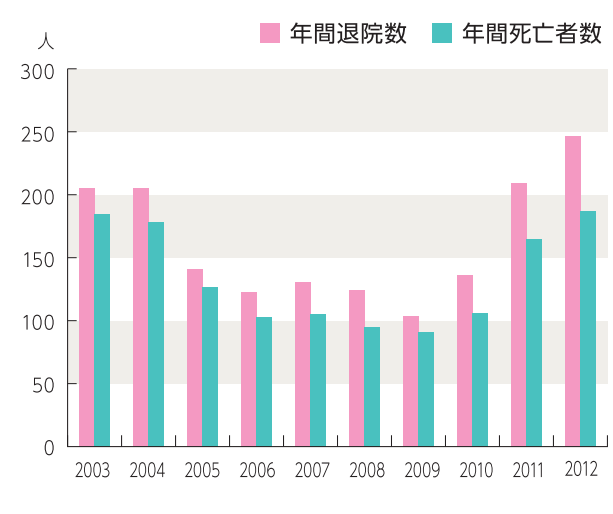
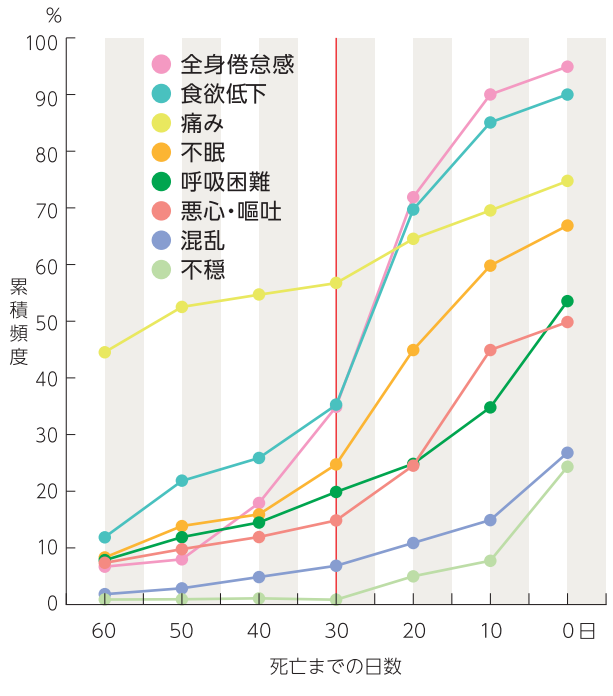


図2/死亡前の身体症状



緩和ケア入院適応

1. 癌に伴う身体的、精神的症状があり、主治医もしくは緩和ケア医師により入院が必要と判断されている。
2. 緩和ケア病棟では癌に対する積極的治療(手術、抗癌剤、放射線療法、侵襲的処置)、心肺蘇生を行わない事を本人、家族が理解、同意されている。
3. 本人、家族が緩和ケア病棟への入院を希望されている。
4. 告知の有無は問わないが本人が希望すれば告知する事を家族が了解されている。

癌に伴う緩和すべき症状がなく、介護が主たる目的の入院は受けていません。

また症状が落ち着いた場合は一旦退院となります。

当院の緩和ケア医療は入院医療のみで外来フォローは行っていません。入院医療が必要となるまでは今までの主治医の先生に診てもらい、入院が必要な段階で緩和ケア病棟へ連絡を頂く流れになります。

当院では差額ベッド代はありません。但し病状によって部屋の移動をさせて頂く事があります。

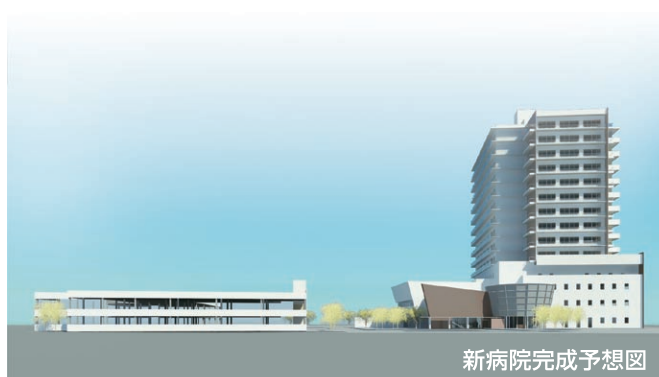
入院までの流れ

一般の入院と異なり、緩和ケア病棟入院に当たっては予め緩和面談を受けて頂く事が必要となります。

- ① サポートセンターへ緩和面談申し込みをして下さい、面談日をお知らせします。
- ② 面談日に主治医の先生の紹介状をもって来院下さい(紹介状がない場合は面談できません)。病状により本人が来院できない場合は御家族だけで可です。
- ③ 面談医師より病状、希望を確認させて頂きます。
- ④ 入院適応判定(ベッド空き次第入院、入院希望になれば連絡頂く、入院適応なし)

新病院オープンにむけて

現在2015年病院建て替えに向けて工事が進んでいます。新病院では最上階の14階に緩和ケア病棟ができる予定です。新しい緩和ケア病棟は差額ベッド代なしで全室個室になります。そこで初めて入院費用の負担が少なく、かつ環境の良い部屋で療養したいというニーズに応える事が出来るようになります。



新病院完成予想図

専門的な看護の実践・指導・相談を 活発に活動していきたい

サポートセンター
副センター長
副総看護師長
フクダ
福田 まさみ



平素よりご支援ご指導頂き、心より御礼申し上げます。

4月15日に開設致しました“サポートセンター”の機能について簡単にご説明致します。①患者様相談室(窓口)【新設】は、患者様からのご相談・お問い合わせ・苦情受付など、「どこに聞けば良いのかわからない。」というものも含めてお伺い致しております。②医療福祉相談室は、8名のソーシャルワーカーで公的制度、社会資源などのご相談を承っております。③入退院支援室(PFM室)【新設】は、入院前から入院中・退院後までの一連のシステムサポート及び療養生活上のサポートをさせて頂きます。④地域連携室は、医療機関からの検査予約・受診・入院へのご依頼・お問い合わせを承っております。そして新たに、“予約センター窓口”を7月1日に新設する予定で準備(受付時間の拡充)をすすめております。これらの4つの機能を統括することで、情報の確実性や個別性を担保することができ、患者

様により円滑に医療や検査を受けて頂け、より迅速に安全に入退院準備のお手伝いが可能になるものと考えております。

患者様相談室は、開設後1カ月、相談件数は徐々に増加しております。お問い合わせやご相談以外にも、ちょっと話してみられるという方も多数おられます。もちろん苦情に値する内容もございますが、大きな苦情が減少している印象があります。しっかりと、お気軽に、お話を聴かせ頂きますという場所があるということが、患者様方の安堵に繋がっていくものと受け止め、患者様やご家族様の笑顔に繋がれる活動をして参りたいと感じております。

今後、サポートセンターの役割は更に飛躍させ、患者さまや地域の先生方を始め、職員も含めたサポートを目指して邁進して参りたいと存じます。今後とも宜しくご支援ご指導をお願い申し上げます。

新病院建設ニュース

立体駐車場&新病院外観検討会

おかげさまで持ちまして、立体駐車場建設は順調に進んでいます。鉄骨が組みはじめ、外観が浮かび上がっています。

7月1日(月)からご利用いただけるよう、運用について議論をすすめています。立体駐車場は3段式で、身体がご不自由な方



でも安心してご利用いただけるようにエレベーターも設置します。機械化により24時間ご利用いただけるよう調整をすすめています。立体駐車場には高さ制限(※2.1m)がございます。高さを超える場合は、恐れ入りますが、近隣駐車場をご利用ください。

本体建設のとりにくみでは、5/18(土) 14:00より「新病院外観検討会」を開催しました。土曜日の午後にも関わらず、職員、地元地域の方、友の会の方に参加いただき、それぞ

れの想いや意見を出し合いました。

今回出された貴重なご意見を踏まえながら、アート&アメニティPJ、建設委員会等で検討していく予定です。みなさま、どうぞ期待!



いのちみゅーじあむでは、7月まで「ゆるキャラ展」を開催しています。みみはらのゆるキャラを公募して、寄せられた作品です。来院の際にはぜひお立ち寄りくださいませ。(建設事務局 成田)

